

冠動脈 CTA における Appropriate Use Criteria 2010 の検証

【背景・目的】冠動脈 CTA は冠動脈診断の日常的検査として広く認められている。2006 年に AHA 等が発表した Appropriate Use Criteria(AUC)2006 で冠動脈 CTA の適応基準が示され、本邦では日本循環器学会等が 2009 年に発表したガイドラインに適応基準が示されている。更に 2010 年に適応基準がより詳細になった AUC2010 が発表された。今回当院で施行された冠動脈 CTA の適応を AUC2006 及び 2010 に基づき検証した。【対象・方法】64 列 MDCT にて冠動脈 CTA を撮影した 2008 年 1 月の 40 例と 2012 年 1 月の 40 例において AUC2006 及び 2010 に基づき 3 段階 (Appropriate: 適切、Uncertain: 不確定、Inappropriate: 不適切) で評価し、冠動脈 CTA 適応の有用性を検証した。【結果・考察】AUC2006 と 2010 を比較すると適切が 50%から 65%、不確定が 35%から 27.5%、不適切が 15%から 7.5%に減少した。AUC2006 と 2010 どちらにおいても不適切が 7.5%あった。適応基準がより詳細、明確になり冠動脈 CTA の適応が広がる結果となった。冠動脈 CTA を依頼する側、行う側双方とも適切な検査である必要があり、情報共有できるシステムが必要であると考えらる。